

皐月俳句・短歌集

篠南川柳会

尋ねても答えもどらぬ遠い耳
 プライドでない袖ふつて四苦八苦
 意志表示あいまいだから誘われる
 脱ぎすてて着る時いつも探す服
 五十肩服着るだけで一苦労
 うきうきと羽根も無いのに飛ぶ心
 わくわくやうきうきの日は過去となり
 懐かしい友を訪ねりや同じしわ
 スポーツはやる気スピードタイミング
 つまみ食い食べてないよと嘘をつく

菊川俳句会

田植待つ代田の水の澄みにけり
 土手上の燃えるがごとき芝桜
 散る桜吹雪となりて盃に
 日々楽しむ済美決勝桜散る
 里の山淡く色なす遠花見
 庭園の水面に浮かぶ花筏
 黄砂舞う山の緑もうすくなり
 花冷えも着に宴たけなわに

はじめまして。赤ちゃん。

(3月受付分)

地区名	子の名	保護者
広見宮本	き紗雪	よし丈義
城辺甲尾原	そう真	よし高由
御荘平城野田	さ彩	たかゆき之隆

ご冥福お祈りします。

(3月受付分)

地区名	亡くなった方	享年
中浦大戸	タケヨ	92歳
御荘長洲山田	ひふみ三	88歳
緑丙砂田	ハルコ	95歳
緑乙豊久	コウ	85歳
御荘平城倉田	うしたろう 刃太郎	87歳
鮪越中井	サチエ	85歳
下久家濱田	ハツミ	85歳
御荘和口山岡	かつ勝 幸	80歳
上大道武田	いさむ 勇	92歳
広見菊地	クマノ	95歳
広見田中	てる照 子	87歳
城辺乙河野	トモエ	82歳
御荘平城赤松	いさみ 勇	85歳
中川林	とし俊 子	88歳
久家吉田	みつ光 子	85歳
蓮乗寺岩崎	ちあき 秋	89歳
内泊濱田	たへ兵衛	85歳
御荘平城有田	ナヲエ	93歳
中浦黒澤	いさむ 勇	81歳
柏川上	まさ政 夫	85歳
一本松橋本	カズミ	78歳
福浦平野	じゅん 子	71歳
増田円山	ふじ藤 雄	83歳
中浦高橋	とし壽 介	79歳
御荘平城福島	たき喜生	78歳

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。

内海俳句会

花筵今日の名残を畳みけり
 蛇出でて大地ゆるりと引き摺りぬ
 青嵐の飛天え舞える旅衣
 柳絮飛び無限の虚空彷徨える
 さわらび短歌会

太田 信子

岩森十志子

早春の日差しかき混ぜへりコプター羽根の光りてピラ撒く如し
 亡き夫の通帳を今日解約すあなたが一步遠のく思い
 「趣味だけは続けるように」と娘の言ひし母とふ役目を終へしはあの頃
 ころころと春田すきゆく人に逢うすこやかなりし日の亡夫を思う
 蠟梅の花に對ひて深呼吸ふつと笑まひて児は駆けゆけり
 大方の店閉ぢられし宇和島に朝市ありて露の躰買ふ
 軽やかなせせらぎの音に誘われて籠に溢るまで蓬摘みたり
 紺碧の空に見しよと思ふ間のへりコプターに畑より手を振り
 チョコよりも惣菜よかれとバレンタインデー独居の恩師を久びさに訪う
 杉花粉飛散多しとテレビ告ぐ洗濯物の干し場に迷う
 訪いゆけど留守らしき家の庭に咲く春の花ばなに心寄りゆく
 厨よりコーヒー香りて猫と寝る吾に起きよと夫の声する
 雨の音聞きつつ浸る湯の色は深き緑よ夜のふけゆく
 痴呆の友初対面のごと語れども吾も語りつつ悲しさこみあげる
 山々に薄紅の合歓咲きて一人になりし日のかへりくる
 空青くたたなはる山にぬきん出て雪にま白き篠山の峯

澤近 正弘
 水野美代子
 安村寿美子
 山本 豊子
 前田 充
 前田 知子
 松本マズ子
 井村 操
 山崎 能子
 岩村千代子
 木本 清子
 河上 明美
 扇野八代生
 田中久二恵
 吉田 信保
 国松 幸枝